

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

金沢(尾張屋)春吉
《今戸土人形 子持猫》
大正時代-昭和初期

通期



Animals, Animals, Animals!

From the Edo-Tokyo Museum Collection

江戸の百景

江戸東京博物館コレクションより



2024.4.27(土) - 6.23(日)

前期: 4.27(土) - 5.26(日)

後期: 5.28(火) - 6.23(日)

*前・後期で作品の展示替えがあります

歌川広重
《名所江戸百景
浅草田南西の町並》
(部分)
1857(安政4)年
[5/28から展示]

後期

金沢(尾張屋)春吉
《今戸土人形 虎(大)》
大正時代-昭和初期

休館日: 月曜日(4.29日、5.6日、6.17日は開館)、5.7日
開館時間: 10:00-18:00(金曜日-20:00) *入館は閉館30分前まで
主催: 東京ステーションギャラリー(公益財団法人東日本鉄道文化財団)、
公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、NHK、NHKプロモーション
協賛: T&D保険グループ



通期

いまはむかしの 動物づくし

江戸幕府創設からおよそ420年。江戸は、巨大都市として発展し、京都、大坂に並ぶ三都のひとつとなりました。大都市江戸・東京に暮らした人々は、どのように動物とかかわってきたのでしょうか。明治初期に来日した米国の動物学者エドワード・モースは、動物を「さん」づけで呼ぶ日本人の動物への接し方に驚いたことを書き残しています。実際に江戸の街では犬やネコが可愛がられ、時にゾウの見世物が話題となり、ウズラの鳴き声を競う会が催され、ウサギの飼育ブームが起きました。人々は郊外へと出かけては、野鳥を眺め虫の音に季節を感じたものでした。また動物は、広重や国芳らの錦絵に登場する一方で、デザインモチーフへと昇華し、郷土玩具や工芸品の意匠にも用いられました。巨大都市における動物は、人と共生するだけでなく、さまざまに表現されて暮らしを彩ったのです。本展は、2022年にパリ日本文化会館(フランス)で好評を博した「いきもの：江戸東京 動物たちとの暮らし」展を拡充した凱旋帰国展！ 江戸東京博物館の61万点にも及ぶ膨大な収蔵品のなかから、選りすぐりの美術品・工芸品など約240件が大集結します。



前期
《鶴会之図屏風》
江戸後期
[5/26まで展示]

いちばん美しい鳴き声のウズラはどこ?

歌川広重
《名所江戸百景 高輪うしまち》
1857(安政4)年
[5/28から展示]



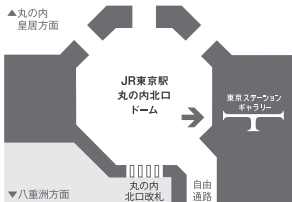
Hi there!

特別展示 東京の鉄道馬車

明治時代に東京の大通りを通行していた人気の乗り物、鉄道馬車の版画類を紹介します。



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



東京都千代田区丸の内1-9-1
| 交通 | JR東京駅 丸の内北口 改札前
| Tel | 03-3212-2485
https://www.ejrctf.or.jp/gallery/



前期
月岡芳年《風俗三十二相
うるささう
寛政年間処女之風俗》
1888(明治21)年
[5/26まで展示]

前期
《鉄道馬車往復日本橋之真図》
1882(明治15)年 鉄道博物館蔵
[5/26まで展示]



後期
《白羅紗菱紋付陣羽織(徳川慶喜所用)》
江戸末期
[5/28から展示]



後期
《雉香時絵線緋印籠》
江戸後期
[5/28から展示]

記載のないものはすべて江戸東京博物館蔵

入館料 一般1,300(1,100)円、
高校・大学生1,100(900)円、中学生以下無料

オンライン
チケット▶



*()内は前売料金 [3/15~4/26 オンラインチケットで販売]
*障がい者手帳等持参の方は200円引き(介添者1名は無料)
*チケット販売=[前売券・当日券] オンラインチケット www.e-tix.jp/ejrctf_gallery/ [当日券] 当館1階入口
●都合により開催内容が変更になる場合があります。
●最新情報や会期中のイベントは美術館ウェブサイトでご案内します

| 次回展 | 空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン 2024年7月13日(土)~9月23日(月)

通期



《セルロイド玩具 ガラガラアヒル》
20世紀

美術館へ、どうぶつたちに行こう♪